

いいね! 0

ツイート

2008年9月10日

海江田万里
公式 Twitter海江田万里
公式 Facebook海江田万里 公式
Instagram国会活動
The Diet Activityメールマガジン
Mail MagazineFAXニュース
Facsimile News新刊案内
New Book

悠久大陸を往く 水彩画で楽しむ漢詩紀行



悠久大陸を往く 水彩画で楽しむ漢詩紀行

出版社 : 小学館
ISBN : 978-4093878104
発売日 : 2008年12月10日
価格 : 1,575円 (税込)

私は本書の漢詩を選ぶにあたって、なるべく中国の歴史の流れを踏まえ、その中で詩人が何を考え、何を表現したかたかにスポットを当てることにし、そのために各章の扉に各時代の簡単な歴史年表を付けておいた。

私は詩人とは、それぞれの時代の空気を最も敏感に感じ取ることのできる人々だと思っている。その意味で、詩人は時代とともに在り、時代から切り離されては生きることのできなかつた人々であるといえる。唐の時代でも、盛唐と晩唐では時代の様相はまるで異なり、時代が生む詩人もまた異なっていた。李白や杜甫はまさに盛唐の詩人であり、杜牧や李商隠は晩唐そのものの詩人である。李白や杜甫が晩唐の人であつたら彼らの詩風は、まるで違ったものになっていただろう。

詩は文学の一表現形態として、3000年を超える中国文学史上、春秋戦国時代から現代に至るまで連続と受け継がれている。もちろん時代によっては、文学の主流から取り残された時期もある。

私たちは一般に「漢詩」という言葉を使うが、すでに紹介したように、中国では、「唐詩・宋词・元曲」乃至は「唐詩・宋文・元曲」との表現がある。つまり、唐の時代は文句無く「詩」が文学の主流だったが、宋代になるともっと形式が自由な「詞」が流行し、あるいは「文」が中心になる。また元に入るといわゆる「戯曲」が脚光を浴びる。こうした時代の流れの中で、詩人もそれぞれ「詞」を作り「文」を賦してきた。それはそれでいい。しかし、それでもなお、あたかも人の背骨のように長い中国の文学史を支える大事な役割を担ってきたのが、「詩」であり、詩人たちの「詩」に寄せる情熱だったと私は考えている。

本書では王昭画伯の絵画に合わせて、漢詩を選んだが、中にはどうしても載せたい詩があって、それに合わせて新たに画を描いてもらったケースもある。また、紙幅の関係で全体を紹介できなかった詩も多い。読者には他の書籍などでぜひ詩の全体を読んでいただきたい。そうして初めて詩人が本当に訴えたかったことがわかるケースもあるだろう。

慌しい日程の中で書き上げたが、漢詩と画伯の絵画の愛好者には満足のいく書物になったとの自負はある。その功の大半は小学館編集部の大澤昇氏の労苦に負うところが大きい。大澤氏も王昭画伯と長い交流があつて、その結果、「東洋画」と漢詩のコラボレーションの本書の出版にこぎつけることができた。心から感謝したい。

2008年9月

カテゴリ

[オピニオン](#)[ダイアリー](#)[トピックス](#)[国会活動](#)[新刊書籍](#)[未分類](#)

Tag

民進党 高校生に
わかる政治・
経済

認証バナー



海江田 万里

copyright © Banri Kaieda. All rights Reserved.